4月の学習会の案内

平成２７年４月９日

新年度を迎えました。語る会は第２２１回の開催です。本年度もよろしくお願いします。

４月は、新しいことがスタートする時期ですね。私は本年度も４年生の担任となりました。ですが、同じ学年とはいえ子どもはちがいます。今年は今年のカラーがあるようなので、これからどんな成長していく姿を見せてくれるか楽しみです。国語としての観点からいうなら、今年は書くことの指導を今まで以上に系統的に行っていきたいと考えています。感じる心を耕すと同時に、それを書いて表現することを続けていくことで国語の力を高めていきたいと思います。先生方の４月からの新たな取り組みはどんなことでしょうか。そうした新年度ならではの話題もできればいいですね。

今月は先月からの継続で光村図書６年生の新教材の教材研究を続けていきます。お忙しい時期ですが、多くの先生方のお越しをお待ちしています。

また、このタイミングで語る会の会員名簿を整理したいと考えています。メールアドレス等の記入をお願いすることになると思います。ご確認の上、お越しくだされば ありがたいです。よろしくお願いします。

日　時　　平成２７年４月１８日（土）９：３０～１２：００
場　所　　岡山大学教師教育開発センター　**東山ブランチ１Ｆ大会議室**
　　TEL(086)272－0511　　FAX(086)271-3455
連絡先　　小出　真規（こいで　まさき）TEL　090-5704-7339
　　m-koide@okayama-u.ac.jp（学校パソコン）
　　m.koide.freewill@icloud.com（携帯メール）
　　※小出の携帯メールアドレスが変更になっています。

内　容　　「時計の時間と心の時間」光村図書６年（１学期新学習材）の続き
　　教材研究を中心とした会になる予定です。

＜お知らせ＞

※　駐車場について
東山ブランチの駐車場をお使いください。

※　会費納入
新年度の年会費をお願いします。２０００円です。

3月の学習会の報告

文責　難波

３月の語る会は，「笑うから楽しい」（６年生教材）の教材研究を行いました。

田中先生より

○だんだん暖かくなり，春の訪れを感じる。寒い日が続いていたので嬉しい。

○新年度に向けての動きとして，Ｈ２８年度の西日本集会を意識して進めていきたい。この語る会の研究も，西日本大会のテーマとそろえていきたい。

○読むことの授業を，指導者が意識して環境構成し，学習の意味を活動の文脈の中で発見させることが，学びのイメージを共有していくことにつながる。教員集団，地域集団が共通の認識をもっていくことが大切。

小川先生より

○西日本集会では，「読むことの教育をどうつなぐか」ということを考えていこうとしている。「つなぐ」というのがキーワード。

「つなぐ」…何と何をつなぐか。①発達段階（幼小・小中・小学校の中でのつながり）
②学習者同士（学び合いの過程・部分精読をどうするか）
③学びそのもの（発展学習にどうつないでいくか）

この語る会でも，グループを３つ程度に分けて，研究していくのはどうか。

最終的には，学習会で本を１冊作って成果を出したい。

○２月に熊本の研究会に行った際に，「対話の研究」について勉強した。

対話を通して…学習の中の話し合い活動が深まる
他者がいるからこその気付きが生まれる
自分が成長できる　　…などということを主張されていた。

なぜ学び合いをするのか，なぜ部分精読をするのか，突き詰めて考えていきたいと感じた。

決まったパターンからの脱却も求められていると思う。発問の数や板書の仕方など，本格的な変革が必要となってくる。

○今日の教材研究「笑うから楽しい」の授業イメージについて

直観をどのようにとらえるのか，どのように検証していくかを考えていきたい。

単元名には，“筆者の意図をとらえ”“自分の考えを発表しよう”とあるので，そこから単元構想や授業の姿をイメージすると良いのではないか。

田中先生より

○西日本集会で領域を絞ったテーマは今までにない。“読むこと”というテーマに絞られたことで参会者の学びが深まりそう。

岡山の学力が下がっている中で，目標（問題意識）を共有して，アプローチを見出していくところに価値がある。

学習会での本は，Ｈ２９年度を目指して作りたい。西日本集会には間に合わないので，途中経過を発表できればよい。

（グループごとの教材分析）

●1グループ

・題名を読んで，「楽しいから笑う」ではなく，「笑うから楽しい」となっているところに面白さを見出して読み進めていけそう。

・「本当に体の動きと心の動きには関係があるのかな」という直観をもとに，「確かめたい」という思いで読める。
・段落は，１段落と４段落で筆者の考えが述べられている。２段落には，実際に確かめられる事例，３段落には科学的な根拠となる事例が挙げられている。この段落の機能も子どもはすぐに確かめられる。
・批判的な読みができるかどうかについては，なかなか難しいと感じる。筆者の考えに対して，「納得できる」「納得できない」という立場でなら読んでいける。また，「納得できない」場合には，どんな説明があれば納得できるのか，と考えることで，筆者の説明の意図にも触れることができると考える。短い説明文なので，飛躍している部分もいくつかある。補いながら読む力も身に付けられる。

●2グループ

・１時間で授業を組み立てると，「『笑うから楽しい』って本当かな？」という疑問をもったところから始め，「筆者が伝えたいことは何か？」「体を動かすことで心を動かすことが本当にできるのかな？」ということを考えていく。そこから，２段落，３段落を詳しく読んで，納得できるところに赤線，納得できないところに青線を引くなどして確かめていく。
・説明不足や，説明の飛躍はあっても，例の出し方の良さや筆者の伝えたいことは伝わる，というように，肯定的に読んでいけるのではないか。

●3グループ

・「中村さんはみんなに何を伝えようとしているかな」と問いかけ，「それは～だ。理由は，２段落に書いてあるから」というように全体を読みながら深めていく。直観をもったところに理由付けをしていくことで，重層的な読みをすることができる。
・「考えと事例をつなぐ」「自分に引き寄せる」という読み方をすることが大切。
・４段落の後半には，読み手にフレンドリーに語りかけているような書き方をしている。書いていることをどう思うか，読み手が自分に引き寄せて考えることができる。
・「行動をコントロールすると心が変わる」「腹が立ったときは～すればよい」など，読み手が確実にメッセージを受け取ることで，読んだことを次の読書にもつなげることができる。それが目的的な選書ではないか。

小川先生

・「にっこりえがお」「にが笑い」「満面のえがお」など，笑顔にもいろいろあるが，笑顔は良い。いやなことがあったときだけでなく，心の構えをもつことが大事。
・直観をもつことは，読むエネルギーをもつこと。「中村さんはどんなことを伝えようとしているのか」と理由付けしながら読んでいく。そのことが論理の直観につながる。
・正確にとらえる力と目的的に読む力の２つが大切。自分の学びをどう自覚化させるか。それを大切にすると，子どもは次の教材でも直観を大切にして読み進められる。

田中先生

・今の時期，落語をよく聞くが，たまたま落語家が述べる「笑いとは…」という話を聞いた。笑うと心が開放されるという良さがあるという。
・この教材は不十分なところが多い情報不足の教材と言える。「笑うと鼻の入り口が広くなる」というのは果たしてそうか。笑うときだけではなく，怒っているときも広くなっている。
・この教材には笑っていることだけ書いている。全部信じるのではなく，限定的な内容である。
・段落について。１段落と４段落は対応している。各段落では「～のです」という書きぶりで展開している。２段落と３段落は，表現上は違うことを述べているようだが，実は補い合って成立している。（２段落には表情のこと，３段落には表情によって影響すること…というように）

No221　小学校の国語を語る会

・この文章は，頭括型・双括型の文章になっているが，結論を先に示していることで展開に広がりがない。しかし，この文章量では妥当と言える。
・「筆者が伝えたいことは」という直観が働くことで，その内容に対して自分はどう思うか，内容の批判につながるような読み方ができる。指導者の方向性一つで，共感的に読むか，批判的に読むか変わってくる。この教材では，共感的に読んでいく方向が良いのではないか。